

大規模地震時医療活動訓練

令和元年9月7日 内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練を実施しました。

埼玉県で唯一（当時）、基幹災害拠点病院に指定されている当院の災害時の役割は重大です。

訓練は、これまでにない規模で、他の医療機関・関係機関とも連携し実施しました。

参加者 当院参加者 121名
DMAT隊 51名（12隊）
看護学校生 35名
見学 10名（医療機関・大学生）

連携した機関

川口市医師会 川口市保健所 川口市消防局 近隣医療機関 ほか



2機目のドクターヘリ到着。



1機目のヘリが飛び立ちました。

災害対策本部訓練



災害対策本部に重要な情報が次々と報告されます。

暫定本部設置から、速やかに災害対策本部を設置しました。



災害対策本部では病院事業管理者・院長らが報告を受け指示を出します。



暫定本部設置を設置しました。



情報収集室

災害対策本部に情報を上げるのは、情報収集室です。
様々な情報が集まります。



棟名	棟数	延床面積	床面積	階数	用途	状況	備考
7A	25	10	3	1	1	0	
7B	22	11	12	10	3	0	
7A	11	17	11	10	3	0	
7B	47	17	18	10	0	0	
5A	4	17	21	6	0	0	
5B	41	6	11	3	1	0	
4A	43	17	20	6	0	0	
4B	42	5	11	7	8	0	
3A	15	5	11	4	0	0	
3B	26	20	2	24	0	0	
NIDU	26	0	26	0	0	0	
SCM-FACI	6	0	6	0	0	0	
研修教員	4	0	4	0	0	0	
OP室	5	0	5	1	0	0	
中央社務							
計							

患者・職員被災状況チェックリスト(F表)

項目	被災状況	備考
保津及び		
各部署	76人	
病院敷地内	11人	
管理棟	11人	
医務棟	12人	
患者支援センター	19人	
その他	17人	



DMAT受入れ訓練



新しく入る情報から、次の支援を判断していきます。

DMAT調整本部を設置しました。



緊急消防援助隊も参加、搬送調整しました。

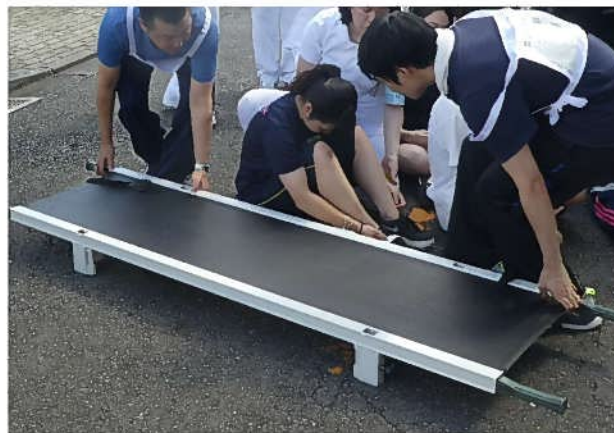


DMAT隊は全国から12隊、総勢51名来院しました。

多数傷病者受入訓練



次々と患者が搬送されます。



担架で重傷者を搬送します。



患者役は、看護学校の学生です。



診療統括本部



受け入れた傷病者の転院や入院患者の状態により、速やかな判断が必要になります。

救護所



新しくできた E R 室も赤救護所になります。



D M A T 隊が診療支援に入りました。



その他



訓練用の簡易ベッド（担架）・車椅子



トリアージ用のテントを張ります。



救急カート



リハビリテーション室は黄救護所として使用します。